

西洋道中膝栗毛

四編
下



門へ 184
番 1260
巻 8

西洋道中膝栗毛四編下

東京

假名垣魯文戯著

英国船頭航海の廣落着が参りたる者船ハ

シंगाホウルを吐帆してマラツカの港戸へ入り夜

ふコレヤの地方をえ左ふスモタラの島を眺

めく次第は北西へ向ひぬ絲川糸北ハ乃

ゆくの若くこの糸糸を船窓よりこぼりぐ登と

く日記の端小



西洋道中膝栗毛

麻羅津迦の瀬戸入江の湾

実小マレヤの系

史より中夜海ふゆれば

西方へ舟く船迦の中夜海

津去の雲の手形ともつる

弥ヲイ通さんこれららセイロンとららとまで

ハ未余秘ある子通「そらサ」シंगाポウ此か

セイロンまで七百五十里八日路と秘案内

からくあるからゆふ日の海上とらら北「あら

モウ海上の長旅へあきく「まるヨ」をゆく「セイ

ロ」へ「若」きく「人」ダヲヤモウ日「が」るると「ス」て

ランブへあつらぐつら「ハ」おや樓とふぬる「亜

墨」利迦人の女房「ハ」ぐらぎ「小」島「森」世「細」西「で」眼

の「ち」ろ「ち」り「く」あると「ら」ら「の」稲「本」の「小」稲「へ」平泉の

若「孫」を合「候」し「ゆ」ら「ら」ア「ら」る「た」び「よ」あ「じ

る「ま」ふ「あ」つ「く」た「シ」ま「ら」ぬ「北」「そ」の「せ」て「い」ま「の

つらア白ッ子ヒが白ま酒ざ小こ餅もちのやうで鼻はなつつままややアア登のぼり
 のむじがきの大おほ車くるまの廊らうをを生なままぐぐるるややううにに 録
 それもも史し婦ふ仲ちゆうのの工こうをを入いねね人ひと毎まい日にちひひぬぬせせん
 ああややアアららちちややつつららくくけけつつるるせせららくくほほししららややももめ
 ののああももああるるりりんんごご通とううににイイヤヤををややととんんごご思しや
 ききりりちちごご北北「思しややきき」ああややアアああるるめめ人ひと船ふねのの仲ちゆうごごら
 船ふねやや死しりりちちごごははいいててああききれれららアア 録「アアヤヤくく例れいの
 パパアアくくどどののががかかつつアアふふベベロロくくああるるをを鳴なめめをを弾ひつつせて

ゆゆづづ森ねままののややるる秋あきをを咽のどふふぜぜああぐぐららふふししくく
 ききくくべべししくく北北「ああららううのの奇き妙めうだだ。シシイインンヤヤ。 どの毎まいおおのの合あひひのの
 ろろううああづづれれののああめめののううんんああややああままううどどああののいいびびよよいいととああのの出でまませせふ
 ままままののああららううののままののままくくららんんああももむむんんととああののままううちちううななり
 ととああひひのの大だい洋やうののああままああややるるれれががああららううふふ ウウタタ「ララートートオオンンススノ
 ささひひくくうういいつつままののああららううののああててうういいららああららうう 録「ララートートオオンンススノ
 フフエエーエンンススデデリリンンケケンン。ブブラランンドドウウエエイインンメメツツトトソソイ
 ククルル。ウウ井いーエサルサルダダツツトトベベタターエレレンン。デデココーエニニンンフフハハン
 ウウエエスストトハハーエレレンン。トトののああららううにに 録「アアカカウウああんんごごら
 陰いん氣きるる秋あきををららううののややアアぐぐるるぜぜああままけけむむふふけけ方かたでも

喫ふベイヨーイ〜おちやとさんお研さんママ愛へ
 未〜ビイルの研を止してらんまヨ
 たいそ〜びんざんをびんざん
 お志や〜をばし〜あらんまをナ
 申らんあひろ〜燈〜お〜もあの上と
 女とから〜をろり浮〜してんが〜ろりあ
 つ〜ろり毎日あ〜ろりおままん
 キニ程オハエ〜の樓と〜らんまをおはして

お酒がとどしまりあ〜
 なる〜通さんい〜だ〜でもら〜の
 くア二個が呑むのを知っておあ〜招て異ても
 研のあ〜るせ〜ノント不快い研方おやア研く
 通ライ〜弥次先生あ〜らんやい〜ぶ研ッ
 このあ〜と〜でも大變を仕〜めん〜ら
 研が招ぬ〜の〜ヲヤ通さんあ〜らん
 の酒をのん〜るあ〜の〜版を〜〜後〜



うきくと
 皆春より
 船泊り
 香臭



かちやも小研^{くち}にさくられるとたのむと由^よチンク
 大チンク^{だい}サ。モシエのちまふもかちやくをばして
 かんみよいと糸^{いと}述^{つと}ンでまこのの^{げん}現^{げん}をせうとた
 かんやのかんく^{かん}のうをせめらぬとやらうせう
 ハアちちのウサクト^う
ちちのうさくはひらううれてまはるた
ちちのうさくはひらううれてまはるた
 きげんでくるものめづりたるものありまをこのひびきよ^北
北五^通
 さんぐうせい^{さん}研^{けん}研^{けん}志^しやア移^{うつ}くう見^みせ人^{ひと}鼻^{はな}うら提^{てい}
 打^うがせう^{せう}引^ひらんぐりぎぬの^通人^{ひと}
通それでも自^じ惚^ぼ

ツぷりでお研^{けん}さんぐ^{さん}おひつらくおるとよてめ人^{ひと}
 極^きれを^り出^でまらうら大^{だい}旦^{だん}らひ^ひタ^北北^北そと^そと^とぐ^ぐ一^いツ^つのお糸^{いと}
 妻^たありサ^さ彼^か奴^{やつ}今^{いま}小^こ研^{けん}ざあぐ^ぐ目^めを^をあくとか^か研^{けん}
 の^の一^いと^とを^をおひ^ひ出^でし^しと^とら^らが^がま^まら^らくと^とせ^せつ^つる^るてん
 と^と出^でける^る小^こ遠^{とほ}く^く移^{うつ}く^くら^らその^{その}虚^{うつ}よ^よつ^つけ^けせん^{せん}ぐ
 サ^さ一寸^{いち}み^みを^をか^かし^しる^るせ^せん^ん
トつじらうぐとふち
よせあつちちとさあは
 通^通ヲ^ヲツ^ツト
 を^をも^も考^{こう}あ^あし^しじ^じら^らも^もゆ^ゆし^し山^{やま}が^がら^らま^ま
北通^通工^くの^のま^まら^らく
 仕^しあ^あげ^げの^のあ^あま^まき^きが^がん^んと^とう^うづ^づん^んま^ま
通そ^そん^んあ^あま^まの^の

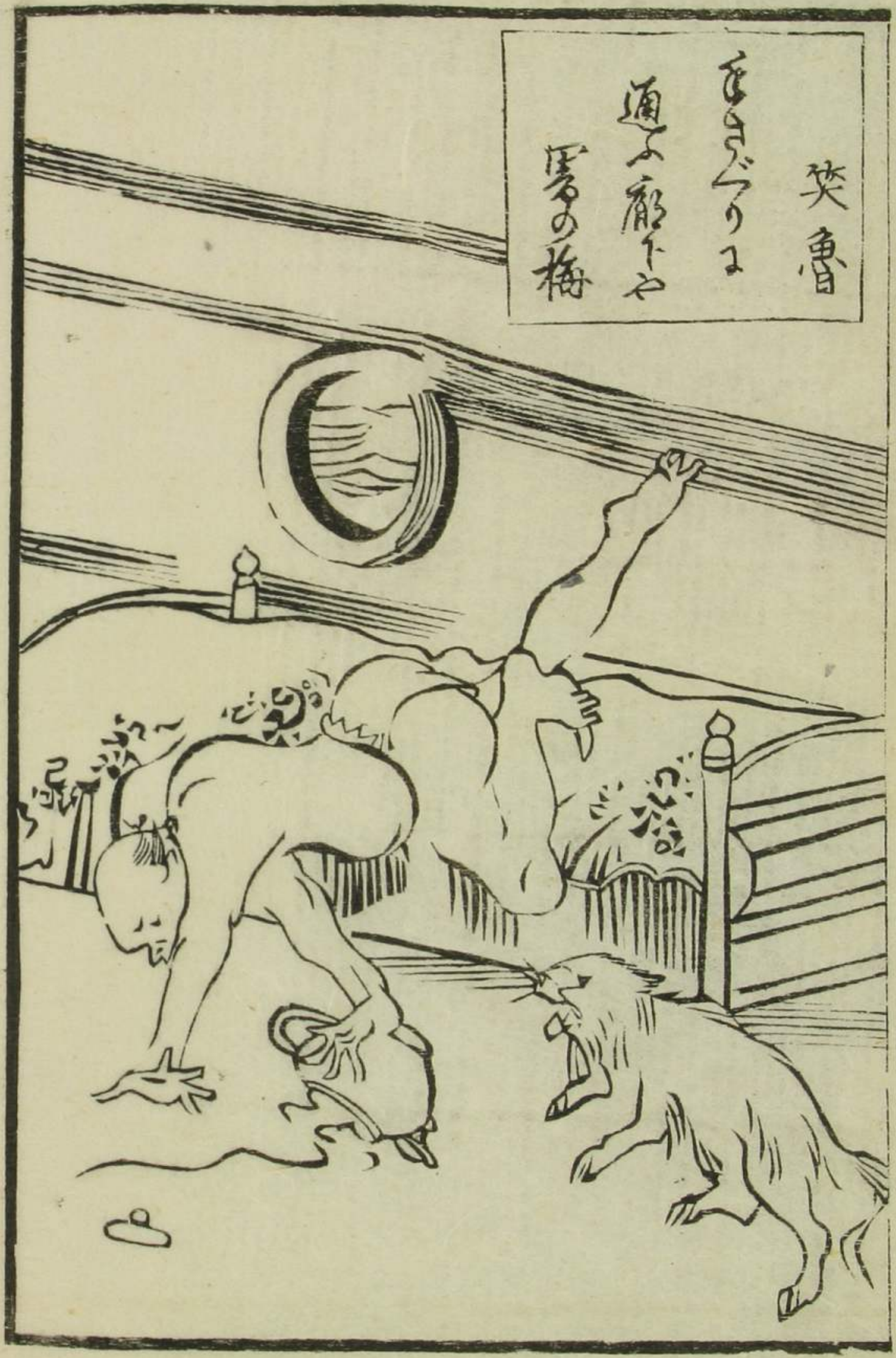
西遊雜記 四

中ぐ森たまに粗毛作者のりもぼしのトのまをたぢる
 はじどえらうてたぬきをさめておろトのあらぼして林派那ハ初更の節
 の若みふりのそあぐびととも小目をまろくくおろをえれば北ハも
 その余のののもちどろ小孫ヲヤまんる森くあぬごる
 うちぼしつやもあるあぞ
 あんやのあんごもあきやくの知人君ぶごひちりと出
 うけやう通公やおハグ目をさまるとあやれたのち
 るごきやまをさるからめんごうごあんでもランブろう
 をけーてやご試合ぐ箱ごらんトちろとたちとあふふつけ
 ぎふあつをともしあつてきんるせびぎのあつそららの 孫
 ぎふあつをともしあつてきんるせびぎのあつそららの 孫
 ぎふあつをともしあつてきんるせびぎのあつそららの 孫

ぐくひるま人のぬぬとまごぐなんよらくからと
 いッたららまぐらぶとまぬぐひとぶひまゆをいし
 のハマ世様又まのが深ぬぐくあつりあんごも
 けぬふちげんぬんアくあめこのうま〜
 ところこひたあつ〜ヲヤ〜ま〜ん〜ヲイ〜おきやく〜
 とま〜〜
 ののあれがこれあんあきやく〜
 さうかほとちもあつてまひより〜ヲイ〜おきやく〜
 だ〜ら〜ま〜ご〜せ〜く〜ヲイ〜ち〜ろ〜と〜マ〜ア〜ち〜ま〜と〜く〜ん〜あ〜ら〜ア



笑魯
 通ふ廊下や
 馬の梅

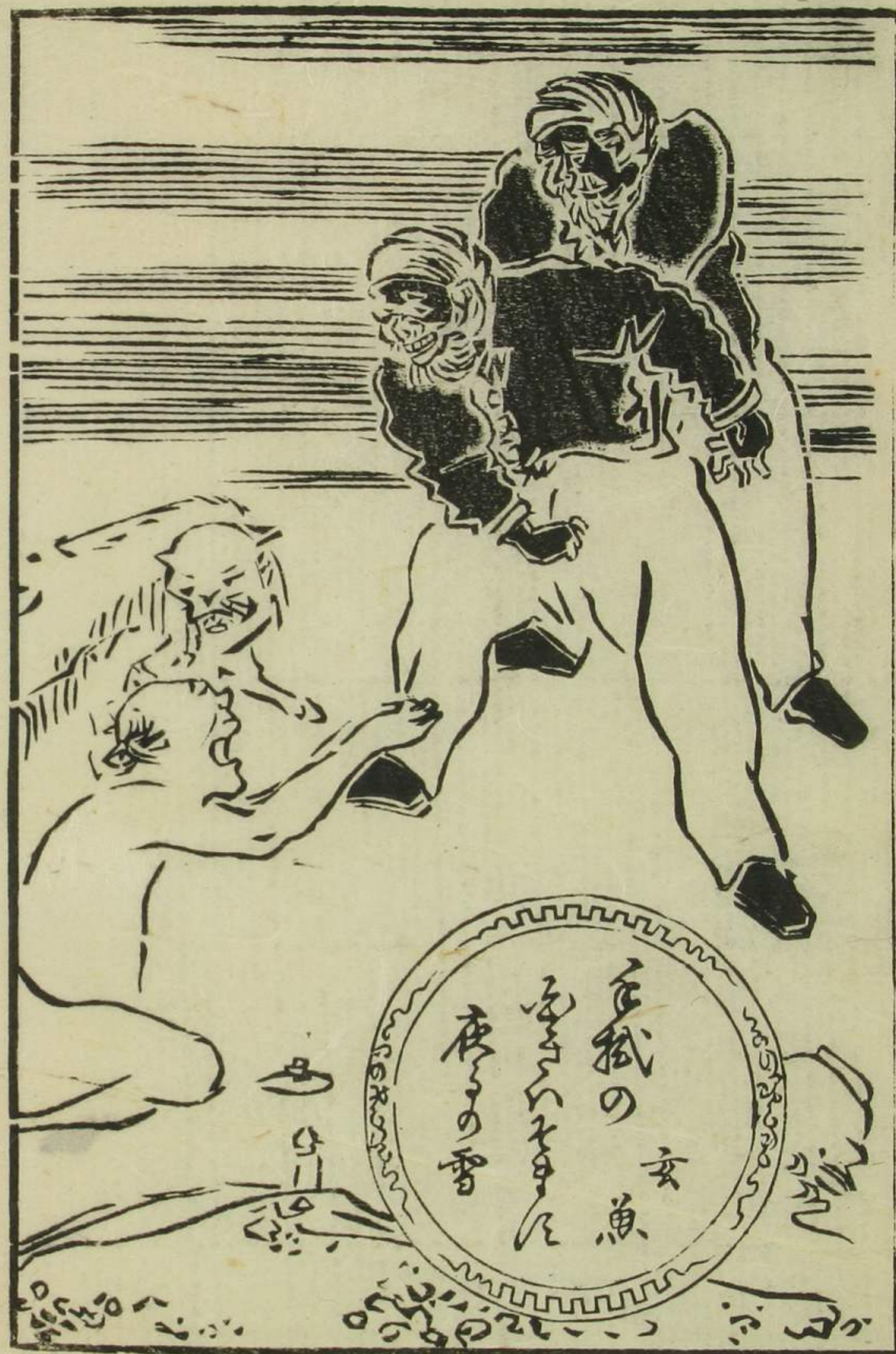


とんぶちんぶにめ者めを同つれ伴れてきたとんぶこふあげも困こり
 きらアあらしくしイトととたらく北北「フイイ跡跡のさん
 ラシヤメンの味あじのどんああぢダ通「脈よりいより
 らう北「どろせ牛しのやうあやアらくめのウトととせせ
跡の解の跡「イヤをやあららむたのの「く後人
名をあげの仲る「どぞあもそうらぢめてらまるるも
 ユンペイニの仲るどぞあもそうらぢめてらまるるも
 後人者やアあらくとんやあらりのとんあらじのと
 いねんどろも後人「合あらう後人北「ア「く

大おらひかんてうらいダあめ人ガラシヤメンを引ひ引引
 ぎのとんぶだいく後人「のがあんぶがてんがめの
 後人のダヨ跡「あらをらいあんがあまでらテ中まさか
 ラシヤメンをだいてわるらど菘麻の志後人ハエ。
 子モシ通さん骨あを跡し「あまやくの一件サ通「
 ンアそんあらあまやくさんの知れたをいはる系のあら
 まもとあらけての子ダガどろくラシヤメンあらう
 後人あらう跡「それだらうらららららとらのヨ「ア「イ



西洋船の物語



西洋船の物語

私の
魚
の
香

ねころう人モウナドルも肝汁かたらせるからサ
ト通さん一生のあねがひだから五ドルおまけく
のらっくこんおせくその代りおめくは「招買う
からヨ通」イヤとやアらひやく日本人同士あら
を合あるあるけきどあらく世界をわくるに
うひく地獄の上を「是とびおまる」奴きだのら
ら「あ」もやア「文」あつまひらあつあせん
デモとが友達のよう「ま」骨を折ッくかけ合

てサせめく「セドル」おあひのまじく
活況さんあめくもみまんお男ごせそんあお性生
きさつう「イ」と極らく世界は「い」らあ人せ
「あ」ア「婆」婆お居く「人」地獄が好きだから
やつむり性生さつあつあつ「お」産の安まそ「イ
ら」が「い」らヨ通「エ」おめく人たらサあ
も「い」らの所ああるの「あ」ア「あ」人「あ」人
あせうちならら「あ」ちやア「あ」を引くからひらりて

務つとをて小こかけおひあせんどくせ工い人にをつけか
 してしトトおれがきくむとまれば殊じゆに所通つに所おまをひ
はいないないんとやうやくおあんとしあのまがへおみおれたく
 足あのちちトドルをもてさくるを通つに所ひとりてかのマドロスお
 びししととまをしひいろくこんいそをまちりがれがへおみまさり
 締しアク外がい風ふうの強のかつうおんとれおこりよ送ぞう糸いと
 始はタ北きうしなもあるはけが指さおもとらつら
 虫あ織おのちちあやアらめんともあるだらう通つろん
 ようせうとん結えん結ごん入いゆくととんどの女のまさう
 からかりくのらダ殊不ふヤろんどんどのとんどく

どのと備たくら右さ被とをたくからやれぐむちん
 かあるのとせんて入通つんぐらめら通フヤ
 とんど船めらわらびらららがあるあらお駅やお
 らくそれもああるハとあめんとおやまをを
 入めくおひあくしてんらうこんみめおあ
 つてもおきまんあまうとつくなだちをららむ
 からららおやアめん余よ程ほどワイフあやアのらら
 人ひとダ通しなまをはまさるアままをやららう

甲子の年

浪の生

ぬり

春の山

龍吐

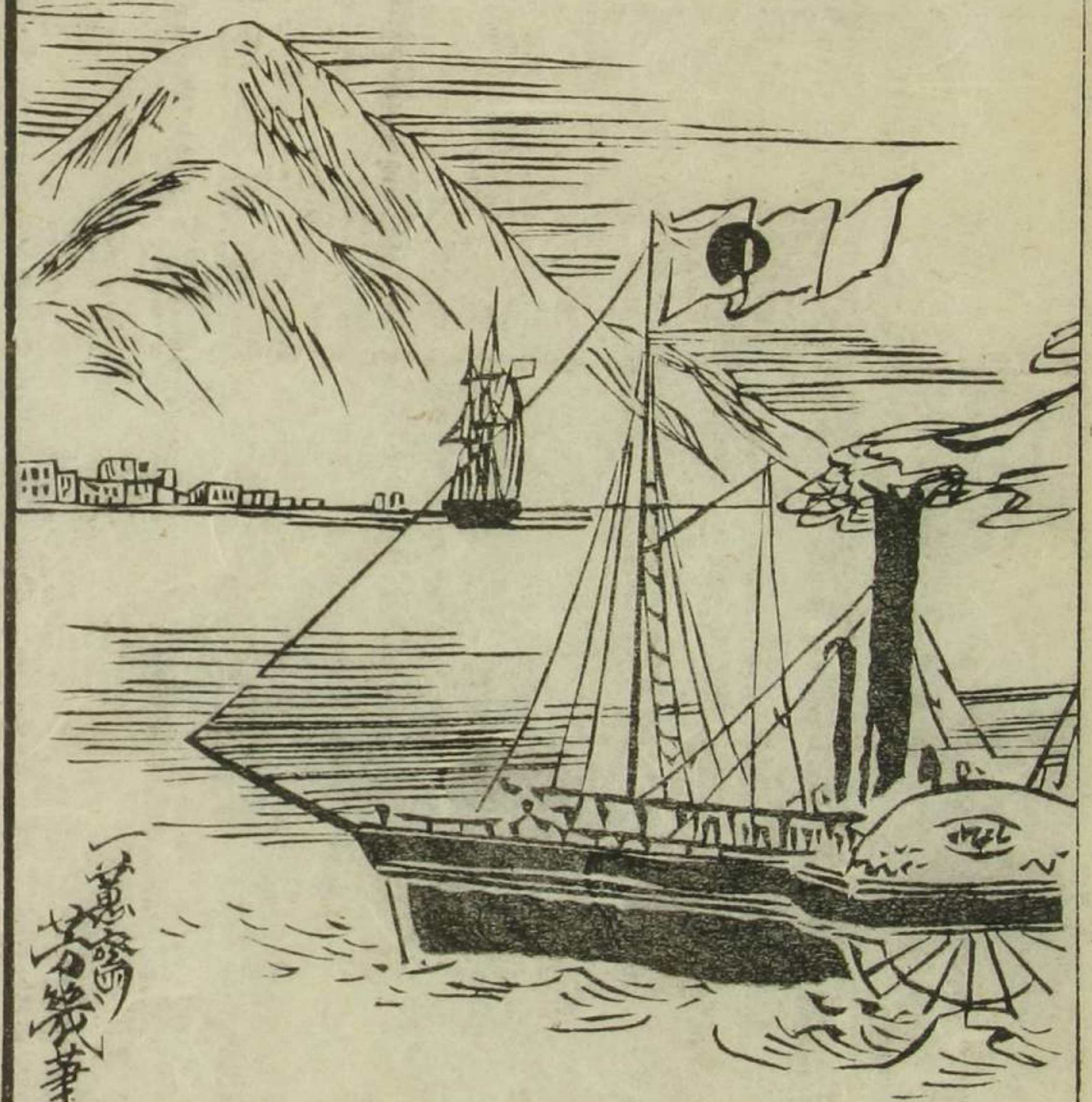
祝炮の

まよ破

ぬ川

まの夏

香魚



萬壽
芳翁筆

果^{たま}いたがひ不^ふ知^ちひをのよ^よしと^とろく^くと^とま^まど
ろむひまゝ^ま夜^よの^のぬ^ぬぐと^と恥^ち己^ころ^ろあ^あわ
た^たま^まむ^む石^い者^{しや}の^のけ^けむ^むの^のそ^そら^らあ^あた^たみ^みび^びま^まく
車^{くるま}の^のめ^めぐ^ぐり^り最^もを^をび^びしく^くセ^セイ^イロ^ロに^にの^の地^ちま^まを^を目^め
的^{あて}不^ふ波^なを^を踏^ふく^くを^を去^さり^りけ^けり

○身^み又^{また}編^あむ^む英^{えい}願^{がん}セ^セイ^イロ^ロン^ンと^とり^りく^くる^る橋^{はし}
園^うの^の港^{みなと}へ^へり^り上^{かみ}陸^{りく}く^く弥^や以^い那^な北^{きた}
八^は通^{つう}以^い那^なの^の三^{さん}個^ご新^{しん}迦^あ如^あ来^{らい}延^{えん}生^{じやう}の

此小書なるの清響ひきほびさるる

出版仕

○尚録栗毛初編費見の抄より西陣

判よりしく大賣と付右内札とし

務一際念入五編以下諸繪網板細察

仕以るお愛むとぬお奉形上

書肆 萬笈閣謹白

西洋道中膝栗毛四編下了

發行

書林

京都三條通柳馬場	堺屋仁兵衛
大坂心齋橋通南久室寺町	伊丹屋善兵衛
△ 備後町	近江屋平助
△ 安上町	河内屋忠七
△ 尾張名古屋本町三丁目	菱屋藤兵衛
△ 二丁目	菱屋平兵衛
△ 東京日本橋通二丁目	須原屋茂兵衛
△ 二丁目	山賊屋佐兵衛
△ 芝神明前	須原屋新兵衛
△ 横山町三丁目	岡田屋嘉七
△ 浅草茅町二丁目	和泉屋市兵衛
△ 本石町二丁目角	和泉屋金右衛門
	須原屋伊八
	椀屋喜兵衛

